



## 生態

九州西岸から北海道まで、我が国周辺に広く分布する底魚です。

### ●分布・回遊

若齢期はあまり移動しないといわれていますが、成長に伴い、餌を求めての回遊や深淺移動がみられます。

### ●産卵期・産卵場

産卵期: 3~6月。  
産卵場: 産卵海域は水深20~50mの砂質域。

### ●成長・成熟

寿命は6歳以上です。概ね2歳で全長約45cmとなり、雌の約半数が成熟します。

# ヒラメ

## 太平洋中部海域

### 主な漁業と漁期

成魚 刺網: 周年  
定置網: ほぼ周年



ヒラメの受精卵

ふ化から25~30日、全長1.5cmほどになると、右眼が左側に移動してくるとともに、浮遊生活から底生生活に移ります(右)。



放流サイズの稚魚

産まれた卵は直径約1mmの分離浮遊卵(左)で、受精後約2日でふ化します。

ふ化したばかりの仔魚は眼が魚体の両側にあります。



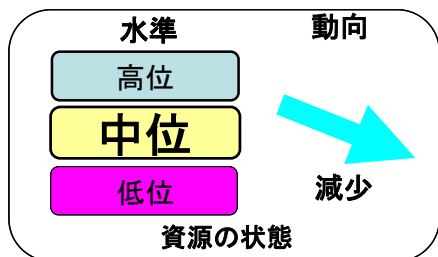
浮遊期の稚魚

種苗放流の取組では、全長約6cmに育てられた稚魚が海域に放流されます。

放流後約1年で漁獲可能サイズ(全長30cm、体重250g)に達します。

## 漁業・資源動向

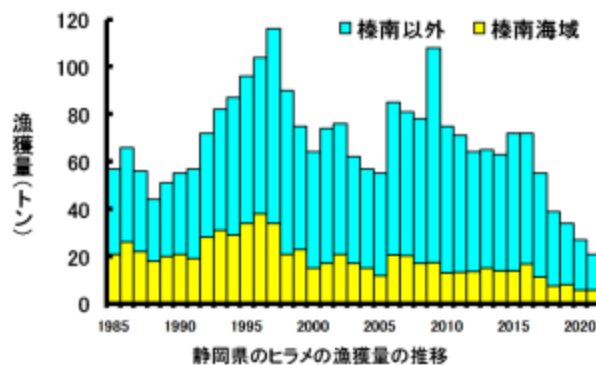
### 【資源】



2022年の資源評価では、静岡県を含む太平洋中部海域のヒラメの資源水準は中位、減少傾向にあります。

### 【漁業】

- 1 県内では、刺網を主体に定置網、小型底びき網、釣りで漁獲されます。漁獲は周年にわたりますが、11月~翌年4月に多くなります。
- 2 県内の漁獲量は1996年、1997年及び2009年に100トンを超えるピークがあり、その後減少傾向が続いています。
- 3 主要産地は榛南海域(御前崎市~牧之原市沿岸)で、その漁獲量は1990年代まで県内漁獲量の30%以上を占めていましたが、近年は20%台で推移しています。



### 【種苗放流】

資源増大を目的に、漁業協同組合や栽培漁業推進協議会などにより、種苗生産施設で育てられた全長約6cmの稚魚が、毎年20~50万尾の規模で放流されています。

### 【資源管理】

小型魚を保護する目的で、漁業者は全長30cm以下(榛南海域では35cm以下)は水揚げせずに再放流する自主管理に取り組んでいます。

担当者の一言: 背鰭や臀鰭を動かす筋肉は「ひらめの縁側」と呼ばれ、その食感と旨味のファンが多いようです。

問合せ先

静岡県水産・海洋技術研究所普及総括班

054-627-1816